

【巻頭言】 The Journal of Nursing Investigation 発刊 5 周年にあたって

松本俊夫

(徳島大学医学部長)

医療の質を確保し、より高いレベルへと向上させるためには、常に臨床成績や成果を世に問い専門家同士による評価を受ける (peer review) ことが重要です。そしてこれらの評価を経て確立された研究成果に基づいた医療が実践される必要があります。これが、現在広く求められている evidence-based medicine (EBM) です。

基礎・臨床医学や栄養学に関わる学術誌は数多く、本学内でも和文の四国医学雑誌と欧文の The Journal of Medical Investigation (JMI) が刊行されています。しかし、看護学領域での研究成果を発表・評価し合える学術誌は決して多くはありません。平成14年の保健学科一期生の入学を機に、医療に関わるあらゆる分野の医療人・研究者の育成を担うという全国でもユニークな徳島大学医学部の使命を果たす一環として、看護学領域での新たな学術誌である本誌が発刊されました。以来、既に第5巻まで計8冊が刊行され、53編の論文が掲載されています。本誌では全ての投稿論文が本学以外の専門家による査読を受け、不採択となった論文も10%近くに達します。また掲載された論文・報告の28%に当たる15編が本学の保健学科以外からの投稿であり、その数は号を重ねるに従い増加しています。こうして、創刊以来順調な歩みを進めてきた本誌が早くも創刊5周年を迎えることとなりました。看護学領域の研究成果を世に問う場として、本誌が今後も益々幅広く活用され、本領域の発展に貢献するものとなることを願ってやみません。

長篠博文

(徳島大学医学部保健学科長)

平成13年10月に徳島大学医療技術短期大学部が医学部保健学科に改組転換されてからもう5年半が経過しました。本医学部は学術雑誌として「四国医学雑誌」, 「The Journal of Medical Investigation」を発行していますが、看護学には看護学専門の雑誌が身近に必要なことから、平成14年に本誌が創刊されました。本誌は紀要とは一線を画し、よりレベルの高い雑誌を目指して学外の専門家に査読を依頼し、投稿者の希望のみならず査読結果にも基づいて原著論文、研究報告、資料等に分類して掲載しています。それと共に、投稿者を学内に限定せず学外者も自由に投稿できることも大きな特徴です。

しかし、論文執筆者の中核としては本学在籍者が活躍しなければならないことは言うまでもありません。平成18年4月には本学に大学院保健科学教育部修士課程が設置され、定員を上回る学生を受け入れており、研究者の厚みを増したことは喜ばしく、現在博士課程設置を目指して準備中です。一方では、平成16年の法人化以来運営交付金の減額等で短大時代よりもむしろ教員ひとり当たりの経費配分は大幅に減少していること、人件費削減のために教員削減を進めなければならないこと等の厳しい環境の下で外部評価に耐える業績をあげなければなりません。

今後、益々独創的論文や欧文による投稿を増やして全国的に、更に国際的にも貢献できるレベルの高い学術雑誌として評価を受けるよう発展することを願っています。